

卓 話

平成 21 年 3 月 17 日

『十五の春に向けて』

有限会社宏陽学舎塾岐阜芸苑
塾長 加藤陽司様



お盆前の 2 週間を使って、中 3 夏期特訓が行われます。15 年余りの歴史があります。

他塾の夏期講習とは違って、まさに「限界への挑戦」を合い言葉に、厳しい毎日が 12 日間続きます。この間 1 日の学習時間が、塾での時間を含め、平均で 15 時間近くになります。今年最高は、12 日間で 210 時間の学習を達成した生徒がいます。

寝ていない時は、ほとんど勉強していることになります。今までは、家庭での学習時間が 1 時間もなかった子たちが、夜中の 2 時、3 時まで、中には徹夜した子がいます。

これは、やらされてできるものではありません。自らが決めたから出来る事です。勉強は、親や先生から言われてできるものではなく、自分で決めた時に出来るものです。

塾岐阜芸苑では、その事に気づいてもらいたいために、この夏期特訓を行なっています。毎年改良を重ね、かなり完成度の高いものになっています。生徒たちは、初めて自分の底力に気づき、感動します。この体験が、この後の受験勉強の大きな支えとなります。「あれだけの事ができたのだから・・・」と、今までの自分だったら困難であろう目標に向かってがんばれるのです。そして、素晴らしい成果を毎年出してくれます。

ここに、今年の生徒の最終日の感想文を一部紹介します。

「やった・・・!!!」「やっと終わった。」という、うれしきで一杯です。特訓中は「あれもやらないかん。これもやらないかん。時間がない。」などと考えてパニック状態で「もうだめか」と思ったこともあったし、何度もやめたいと思いました。だけど、「やればできる」という言葉を信じて 2 時間睡眠で、がんばって乗り越えてきました。すごく厳しかったけど、少し自信がついたような気がします。この特訓をやって良かったです。